

プロジェクト情報

- 国名：コンゴ民主共和国
- 事業名：国家警察民主化研修（現地国内研修）
- 協力期間：2011年から2013年
- 相手国機関：国家警察

1. プロジェクトの背景

(1) 一般的背景

コンゴ民主共和国では、周辺国の介入や反政府武装勢力の台頭などにより、1990年代から紛争が続き、第二次世界大戦後に起きた紛争の中で、最も多くの犠牲者を出した紛争とされています。2002年の包括和平合意、2003年の暫定政権発足を経て、2006年には民主的な選挙により大統領が選出され、現在は徐々に安定化へ向かっていますが、東部地域では、紛争によって国内避難民となった人々や除隊兵士が地域社会に戻り、地域社会の一員として生きていくための社会統合が重要な課題となっています。また、都市部では50%を超える失業率と地方からの人口流入が治安悪化の一因となっており、治安の回復・確保が国家の最優先課題となっています。

コンゴ民主共和国では、治安の回復・確保は国家警察が担っていますが、国家警察は、複数の反政府武装勢力の統合も経て現在に至っており、その多くは警察としての基礎的な知識を身につける機会もなく職務に就いているのが現状です。それはつまり、昨日まで銃器を手に市民を攻撃することもためらわなかった者が、ある日から突然、肩書は警察官となることを意味しています。

(2) ジェンダー視点から見たプロジェクト背景

紛争中、特に東部では、反政府勢力による民間人に対する殺戮や性的暴力等の人権侵害が、組織的かつ広範囲に行われました。東部では現在も紛争が続いており、状況は必ずしも改善していません。女性や子どもは、その場で性的暴力を受けるだけでなく、誘拐され、少年兵や兵士の性奴隷にさせられる例も多く報告されています。反政府勢力は、性的暴力を、一般市民に恐怖を植え付け、支配するための「武器」として使っていると言われています。また、性的暴力を政府の治安維持機関（軍および警察）が行ったとの報告も後を絶ちません。さらに、司法制度が機能しておらず、性的暴力等の罪を犯した者が処罰されないため、犯罪が繰り返され、状況を悪化させています。このような状況を改善し、復興を進めるためには、軍、警察、司法といった治安部門の能力強化が早急に必要とされています。

2. プロジェクトの概要

JICAは、国家警察、国連コンゴ民主共和国安定化ミッション(MONUSCO)、国連開発計画(UNDP)と協力し、2004年度より、首都近郊や紛争の続く東部で、国家警察を対象に各種研修を実施し、同国の最優先課題である治安部門の改革を推し進めるための人材育成を支援してきました。国家警察の人材育成とは、警察官自身が市民の生活を脅かすという直接的な治安の懸念要因を取り除き、国家全体の治安回復・維持を担う組織を育成するという意味を持っています。2011年度以降は、新規採用警察官およびこれまで警察官としての訓練を受ける機会がなかった現職警察官（元反政府武装勢力から統合された警察官を含む）が、警察官としての基礎知識を習得するための6ヶ月の長期基礎研修を中心に実施しています。2013年度までに研修を受講した警察官は2万人を越え、国家警察全体の2割ほどを占めています。その結果、2011年の大統領選挙時には、2006年の選挙時に比べ国家警察の対応が民主的であったとの評価もあり、少しずつ成果が現れています。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

長期基礎研修では、研修内容に人権を取り入れ、基本的な人権概念、ジェンダー平等、性的暴力の防止、児童保護についての講義を行っています。ジェンダー平等に関する講義では、ジェンダーとは何か、なぜジェンダー視点に立った取り組みが必要なのか、などとともに、警察内での男女平等の取り組みの必要性についても学びます。また、性的暴力の防止については、コンゴ民主共和国政府および国家警察の強い要請に基づいて取り入れられ、こうした行為が人権侵害に当たることを教授し、事件捜査を担う警察官としてとるべき措置等の講義を行っています。担当講師の多くは、この研修以前に、教官を対象としたJICAの研修を受講した国家警察の女性教官です。国家警察内の女性警察官の数は、警察官総数の約6%と言われていますが、この長期基礎研修ではできるだけ多くの女性警察官の参加を奨励しており、2011年からの3年間で、143名の女性警察官が研修を受講しました。



治安が維持されなければ、特に女性は地域社会で安心して暮らせません。これ以上の性的暴力被害者を出さないためにも、また、被害にあった女性、男性、子どもが警察の対応によってさらに傷つかないためにも、警察のジェンダーおよび性的暴力に関する理解と能力向上が必要とされています。